

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での生活が継続の支援ができるよう地域密着型サービスについて全職員で勉強会を行い、サービスに努めている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	研修で学んだ理念作りを全職員で行い、結果“自分が認知症になった時には温かい笑顔のある中で生活したい”と意見が一致した。職員採用面接時や、入職時には理念を伝えている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には契約書面や口頭でまぜの里の理念を伝えている。地域の方に向けては、運営推進会議を通して、理念を伝えている。また、認知症ケアについても地域の方を対象にした講演会を開催し、まぜの里の取り組みについても説明を行った。	○ 今後は、当ホームの理念が地域に浸透するように、理念や活動内容を取り入れたホームの情報誌などを地域や他事業所に配っていききたい。
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方が野菜を持って遊びに来られたり、散歩でお会いすると気軽に挨拶をしてくださるようになってきている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームでは、海南太鼓の演奏会や、夏には庭で夕涼み会を開催した。事前にご近所に挨拶に行くと行事に参加をしてくださっている。また、高校生ボランティアの受け入れも行っている。また、町の行事の清掃作業や敬老会・映画などにも参加をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学校から体験学習の要請や地域のシルバー大学の方に認知症についての講義を行い、当ホームでの取り組みや、阿波踊り体操の講演会を行った。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価時の結果は全職員に報告し指摘された点について話し合いを行った。現在、行事・ヒヤリハット・家族会の委員会を作り職員を分け改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、前回の外部評価の結果や、当ホームでの取り組み等の報告を行っている。	○	運営推進会議に参加していただいた方には貴重な意見をいただける良い機会であり、質の向上を図れるように活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通じて少しずつ取り組んでいる。	○	運営推進会議は町の担当者との意見交換できる機会なので、今後は当GHの事を知っていただけるように関係作りをしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在まで対応が必要な方はいなかったが、認知症介護実践研修や介護支援専門員の研修で順次学んでいる。	○	対応が必要な利用者が現れた時には、勉強会を開き職員の理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り等で、利用者のご家族の関係で気になることがあれば、話し合い、ケアマネージャー等に相談をし対応している。	○	高齢者虐待防止関連法等、今後も全職員で勉強していく必要がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の学習会・研修会には受講をすすめている。毎月の職員会議では研修報告をしてもらい、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。また、順次、認知症ケア実践者研修を受けるように計画している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質が向上するよう近隣のGHへ見学に行ったり、運営推進会議に他事業所の職員の参加があり、交流を持つことで事例を検討している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常の場面で職員が疲れていないか、不満を溜めていないか観察し、職員同士の人間関係の不満について把握している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、頻繁に現場に来て、利用者とは話されたり、個々の職員が向上心を持って働けるように、研修の参加や資格取得の支援を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から相談があり、サービス開始までには、来所や訪問し、お話をする機会を必ず作っており、ご利用者・ご家族・職員共に受け入れる関係作りができています。その為か、サービス開始時には大きな混乱をされることなく過ごさせています。	○ 今後も、サービス利用開始まで利用者が不安を理解できるよう努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に至るまでに、ご家族の中で色々な葛藤等で話したくはない内容などもあり、表情を確認しながら傾聴している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人や、ご家族が困っている事は何かを見極め、話し合いながら柔軟に対応しているが、困難な時には、他事業所に相談し、必要なサービスが受けられるように支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームへの入居はいきなりでなく、デイサービスを利用しながら職員と顔なじみになり、慣れてからの泊りのサービスを利用するように勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症になりできない事が増えても、きちんとセッティングすれば利用者が自信を持って行える事は多くあり、それぞれの利用者の得意な事を見つけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に会った時には、職員との利用者から関りの中で教えていただいた事等、ご家族からも今までの生活の事をお話して下さるようになり関係が深まっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族から荷物や手紙が届くと、必ず電話か手紙を利用者に書いていただいている。職員に年賀状を代理で書いてと希望された時には職員が書いた年賀状よりも気持ちが伝わるようなので、必ず名前とメッセージを一言書いていただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとって、大切な方との関係が途切れないように手紙や、電話が利用できるように、支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の人間関係には注意して見守り、関係が上手くいくように職員が間に入り調整を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了した利用者の所に職員が会いに行ったり、ご家族に運営推進会議に参加していただき、関係が継続している。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の気持ちを上手く言葉で表現できない方には何を伝えたいのか普段の様子から判断し、ゆっくりと声をかけ、表情から汲み取っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時に今までの生活歴をご家族からお聞きしている。当初話したがらない方もいるが利用者・家族とも少しずつお話をしてくださっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できる事・できない事をアセスメントしどうすれば有する能力を活かせるのかを把握し職員統一してケアにつなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の方がより良い生活を送れるよう介護計画を作成し、カンファレンスを行い職員全員に意見交換を求めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画作成担当者と居室担当者がアセスメントを行い、進行状況・効果を評価している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別のカルテを作成し、日々の生活の様子や身体状況等を記入し、職員間で情報を共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス利用者で家人が仕事で遅くなる時には夕食までサービスを利用していただくなど柔軟な対応をしている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察は地域の受け持ち警察官が代わると、訪問して下り挨拶ができています。また、救急車を消防に要請する事もあり、連携がとれるように努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	少しずつ他施設との交流が図れるようになり、昨年は花火大会の鑑賞や敬老会の催しに参加し合う等交流が図れてきている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターとは協働は行っていない。	○	今後は地域の周辺情報の収集なども含め関係を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医や病院をご家族と相談し適切な医療が受けられるように支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	重度の認知症で対応が困難だった方や、幻覚・幻聴が強かった方には岡山県にある認知症専門のきのこエスPOWERル病院や、郡内にある精神科受診の支援を行い、医師から助言や指示をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	普段は看護師が受診や往診の支援を行っているが、不在時には介護職員が付き添う事もあり、看護師と相談をしながら行っており、利用者の健康管理の為に連携は図れている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症の方にとって入院は心身に大きなダメージを与えるので、主治医・家族・ホームで話し合い早期退院につなげている。また、環境の変化による混乱が考えられるので、心身の状態や認知症状についても情報を提供し、頻会に面会に行き安心できるように対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医師等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者にとって医療が必要な方には、ご家族と何度も話し合いを繰り返し、入院治療につなげた。	○	重度化した時や終末期に医療体制や設備の面など総合的に判断して利用者にとって安心できるサービスが受けられるように・本人・ご家族・ホームで繰り返し話し合う必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者がより良く暮らせるため医師・家族と共に協力して取り組んでいる。	○	医師と職員が連携を図り、利用者・ご家族の意向を踏まえ安心して終末期を過ごせるように取り組む必要がある。急変時に、対応ができるように医療機関との連携を整える必要がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームから、他事業所に移られる時には、ご家族に同意を得てからこれまでの暮らしが継続できるようきめ細かい情報の提供を行い、住み替えによるダメージを防げるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	知らぬ間に誇りを損ねるような言葉をかけているかもしれないが、さりげない声かけや誘導を行い、他利用者の前ではできるだけ介護をしないように心がけ、職員にも指導を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示の困難な利用者もあり、ゆっくりと声かけをし表情や反応を見て判断している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、それぞれの利用者のペースに合わせて、食事や外出の支援を柔軟に行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	普段の日は本人が服装を決めているが、不十分なところは支援を行っている。 また、行事や外出時には服を一緒に選んだり、お化粧品をしてお洒落が楽しめるように支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、食器拭き等それぞれの利用者ができる事を手伝っていただいている。 食事は毎食、職員は同じテーブルで会話しながら、食事を楽しめるように雰囲気作りに努めている。	○ 利用者によっては嫌いなおかずを残され、食事の摂取量が少ない時があり、柔軟な対応を行っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒を禁止されている利用者があるためお酒は出さないようにしている。 タバコを吸う利用者には、他利用者の迷惑にならないように庭のベンチで喫煙できるように支援を行っている。	○ 食べたい物が個々に食べられるように、外食の機会を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿・便意が不確実な利用者には、定期的に食事前後や、希望時にトイレに誘導し、排尿感覚の長い方は職員間でいつでも確認できるようにケアチェック表に記入している。夜間、テーブル式のオムツを使用されている方でも、日中は下着のみでトイレ誘導する事により、失敗なく、過ごさせている。	○	気持ちよく生活ができるようにオムツを外せるのか等を今後も検討していく必要がある。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を度々拒否する方には時間と職員を変えて声かけすることにより、気分良く入浴していただけるように工夫している。また、個々の利用者の希望に合わせて、異性職員介護には配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調に合わせて、日中は活動(外出や家事)をしていただき、夕食後からは気分的に落ちついて過ごせるように環境を整えている。冬場は安眠できるように、電気アンカや電気毛布を使用している。寝つけられないと訴えがあれば、傾聴し、温かいお茶を飲みながらお話をしている。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自信を持って生活していただけるように個々の利用者にとって、得意な事を見つけ、そのような時の利用者の表情は生き生きとしており、手伝っていただいた時には、感謝の言葉を伝えている。また、お手紙を書くのが上手な方には、お礼状等の書き方を教えていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して少額のお金を自己管理されている方は美容院や買物で自分で支払ってもらっている。自己管理により、混乱が考えられる方には、事業所が管理し、支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や気候に合わせ、ドライブや散歩に出かけて気分転換を図っている。身体能力が低下している方でも、車椅子を使用して外出の機会を持つようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が何を望んでいるのかを担当職員が中心となって検討し年に一回は誕生日のお祝いをおかねて外出の機会を持っている。結果、外食や遠方であってもお墓参をした。現在、実家に遊びに行きたいと希望があり、ご家族も協力をしてくださり、計画をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望や職員がご家族と電話で話す時には静かな場所に誘導し会話ができるように支援を行っている。また、手紙や年賀状が出せるように個々に支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には利用者がどのように過ごされていたかを、ご家族の負担にならないよう伝え、ゆっくりと過ごしていただけるように、お茶を用意し居室や談話室で過ごせるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	“身体拘束をしないケア”を実践できるように禁止の対象となる具体的な行為を職員は勉強し、ご家族にも知っていただけるように玄関に掲示している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や門を施錠はせず、利用者が外出しそうな時は、体調に合わせて散歩やドライブに出かけ気分転換を図っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	終日、利用者から職員がすぐに見つけられるように、記録や夜間の仮眠は廊下のソファで行っている。居室で利用者が過ごしている時は夜間も含め一時間毎に訪室している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、保管場所を決めている。夜間、包丁は新聞紙に包み所定の位置で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記入し、当日の勤務者で話し合い、ヒヤリハット委員会で再発防止と事故を未然に防ぐ為に検討し、職員会議で報告し再検討を行っている。その結果を全職員が閲覧できるようにファイルにまとめている。転倒事故などがあれば、その都度ご家族に報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の講習会に職員は参加している。 夜間の緊急時の対応についてはマニュアルを作成し、周知徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の協力を得て避難訓練を実施し消火器の取り扱い方等、全職員が訓練した。 また、運営推進会議では、緊急時に協力すると、連絡先を自ら教えてくださった。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個々の利用者に予測される、リスクを家族と共に話しあい、危険を回避しながら、抑圧感のない生活作りに努めている。	○	利用者の状態は日々変化しているので、その都度、ご家族と話しあっていく必要がある。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルを測定し、食事量や表情・生活の様子体調を観察し、カルテに記入して情報の共有を行い異常の早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬ができるように各個人用の薬箱を用意し確実に服薬できるようにセットしている。薬の変更時にはカルテに記入と申し送りをしている。なごみ薬局と連携を取り全職員が薬効・副作用が理解できるようにシートを用意している。服薬時には、確実に飲み込んでいるかを確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないように、水分を多く摂り、食事では繊維質の多いイモ類や乳製品を取り入れている。排便につながるように、朝食後はトイレに誘導している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけを行い不十分な方には口腔ケアの介助を行っている。週2回就寝時に義歯を預かり洗浄を行っている。 必要な時には、歯科受診の支援も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握しバランスを考えながら栄養が摂れるよう柔軟に対応している。食事量の記録を行い、必要のある方には、水分量の観察を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員とも手洗い、うがいを徹底し感染症が起らないよう予防と対策マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。家族に了解後、インフルエンザの予防接種を受けている。現時点ではノロ、インフルエンザは発生はしていない。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんは毎食後・まな板は毎晩漂白し清潔を心かけている。専用のエプロンを着用し、十分に手洗いをしてから調理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	絵を飾ったり、花や手作りのリースを飾るなど季節感が分かり玄関が明るい雰囲気になるよう工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭いなどないよう換気を図り、居心地よく過ごせるよう環境整備を行っている。菖蒲湯やゆず湯などを取り入れ、食事では季節の物や柚子酢のちらし寿司など郷土の味付けの食事作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭や玄関にベンチを設置しており、喫煙や日光浴をさせている。また、リビングにソファを置いていると、新聞を読んだり、職員や他利用者の姿を見ることで安心されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者が自宅で使用していた家具を置いていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度の調整は利用者に合わせ調整し、換気はこまめに行っている。また、トイレ内にはにおいがこもらないよう換気扇や窓をあけて換気し、消臭剤も使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内での移動が安全にできるようベッドやダンスなどの家具の配置を配慮している。自室内で転倒などの事故が起こったときには、その都度、ヒヤリハット検討委員会が中心となって自立した生活が送れるように支援を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレやお風呂の所在が分かりやすいように、暖簾や表札を利用者の目線に合わせてつけている。居室の場所が分かりにくい方に対しては個人情報保護法に留意し、ご家族に確認後居室前に表札をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	現在は増築工事中の為、庭での活動は制限されているが以前は花壇と畑があり、利用者と共に季節の野菜や花を育てていた。	○	新ユニット完成後も花壇や畑作りを行い気分転換が図れるように庭での活動を充実していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームが開設して二年が経つが、入居者は全体的に表情良く健康に過ごせているように思われる。

今年度、タクティールケアの研修に参加し、研修受講者二名が施設内で実習を行っている。ケアを行うと、介護拒否の強い方が落ち着いたり、言葉数が増えるなどの変化が見られた。利用者だけでなく、職員も利用者に対する思いの変化が見られ、職員が認知症ケアとは何かを再認識するきっかけになったように思われる。